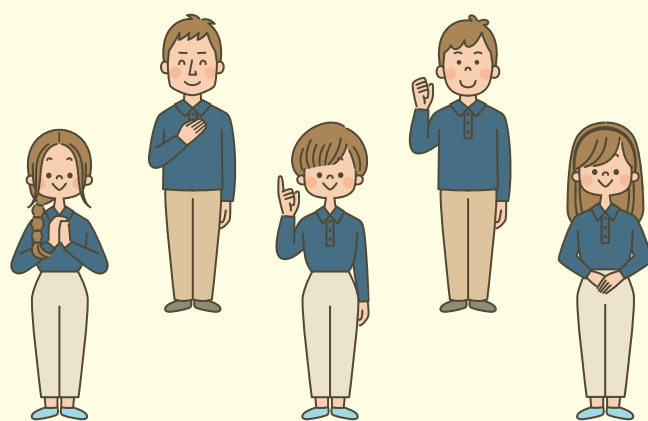
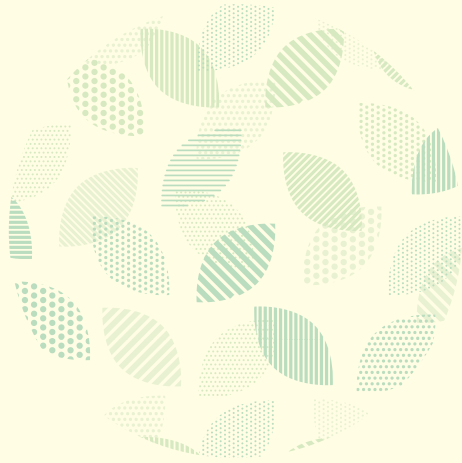


地域福祉コーディネーター
生活支援コーディネーター
令和7年度活動報告書

activity report
2025



気づく・動く・つながる
みんなが主役！
地域で支えあうまちづくり



府中市社会福祉協議会



はじめに

わがまち支えあい協議会（以下、「わがまち」）への取り組みは、平成26年度の開始から数えて11年目を迎え、昨年度には10周年という大きな節目を無事に超えることができました。この間、少子高齢化の急激な進行や地域コミュニティの希薄化など、私たちを取り巻く社会情勢は絶えず変化し、予測困難な課題が山積してきました。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、公的制度の狭間にある課題を我が事として捉え、住民同士が日常的に助け合う「地域で支え合う力」がこれまで以上に重要となっています。

現在、府中市社会福祉協議会（以下、「府中市社協」）では「第4次地域福祉活動計画」を力強く推進しております。地域の身近な相談拠点である文化センターでの暮らしの「困りごと相談会」は週3日開催へと拡充を図り、増員を重ねた地域福祉コーディネーターの体制とともに、一人ひとりに寄り添う伴走型の個別支援と住民主体の地域支援を一体的に展開してきました。

令和7年度を迎えた現在、わがまちの活動は、10年で培った知恵を大切に継承しながら、若い世代を含めた多様な世代が、無理なく活躍できる「だれもが主役」としての

地域づくりへと広がりを見せています。そうした中で、私たちコーディネーターとしての専門性と力量が、今まさに問われています。

本報告書は、令和7年度におけるコーディネーターの地道な歩みと、住民の皆様が主役となって紡ぎ出された豊かな活動実績をまとめたものです。一人ひとりの複雑化した困りごとに寄り添う個別支援力と、それらを地域の課題として組織化していく地域支援力の双方をさらに高め、ソーシャルワーカーとしての力量を発揮していくコーディネーターたちの日常をご一読いただければ幸いです。

終わりにになりますが、これまで活動を温かく支え、共に歩んでくださいました行政をはじめ、住民の皆様、関係機関の皆様方に心より深く感謝申し上げます。今後とも、お互いさまに支え合える「地域共生社会」の実現へ向け、役職員一丸となって邁進してまいりますので、皆様方の特段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人 府中市社会福祉協議会
会長 北島 章雄



目次



●はじめに

第1章 コーディネーターとは

コーディネーターとは	1
困りごと相談会	
相談会の機能や事例	2
相談事例や支援例	3
市民からの声	4
わがまち支えあい協議会	5

第2章 活動実績

困りごと相談会	6
地域福祉コーディネーター実績（個別支援）	7
地域福祉コーディネーター実績（地域支援）	10

第3章 活動事例

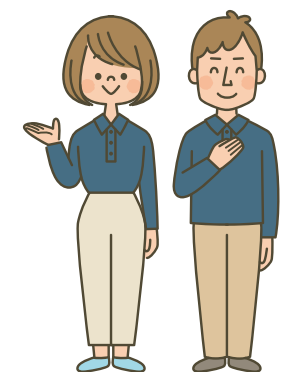
事例①	11
事例②	13
事例③	15
事例④	16

第4章 市内全域での取り組み

わがまちタウンミーティング	17
地域なんでも相談員	18
広報誌の発行「Connectふちゅう」	19

第5章 資料編

わがまち支えあい協議会開催状況	20
外部会議・研修への出席、講師協力	22
ボランティア・協力会員入門研修、助成金交付件数等	23



地域福祉コーディネーターとは

地域福祉コーディネーターは、制度の狭間にあるような困りごとを抱えている方の社会的孤立の解消を目的とした一人ひとりに寄り添った生活支援（個別支援）や、地域住民が一人ひとりの困りごとを地域全体の課題として捉え、連帯意識を持って活動を作り出す支援（地域支援）を行う役割を担っている。

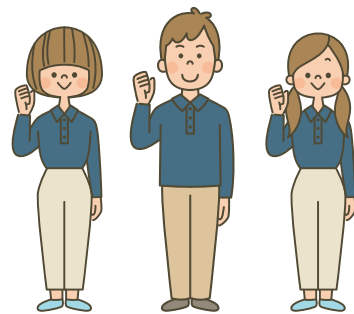
- 個別支援**
- 相談支援、アウトリーチ等を通じた課題の把握
 - 課題を抱える方に対して、本人やその世帯の状態を把握し、公的サービスやボランティアなどに適切につなぎ、課題の早期解決へ向け支援する。
 - 必要に応じて見守り支援などによる伴走支援
 - 地域で社会的なつながりから孤立し、社会資源に結び付いていない人々に対し、収集した情報の整理分析を行い、生活課題を抽出する。
 - 支援関係機関とのカンファレンス等を行い、支援関係機関と役割分担や支援の目標・方向性について協議する。

- 地域支援**
- 地域の状況把握
 - 課題解決のための地域福祉活動の組織化の支援
 - 地域福祉活動の支援・協力
 - 新たな地域福祉活動の創出
 - 地域住民・地域団体との連携及び情報の提供と共有
 - 世代や属性を超えて交流できる多様な場づくりを関係機関等と連携し実施

生活支援コーディネーターとは

日常生活圏域ごとに関係者のネットワークや既存の取組・組織等を活用しながら、地域における生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備に向けた取組を推進する。

- 生活支援の担い手の養成、サービスの開発等の「資源開発」
- サービス提供主体等の関係者の「ネットワーク構築」
- 地域の支援ニーズとサービス提供主体の活動の「マッチング」



困りごとと相談会

概要説明 「どこに相談したらいいかわからない」「誰かに聞いてほしい」といった、ちょっとした暮らしの心配事などを身近な地域で、相談できる場所として「困りごとと相談会」を各文化センターで毎週開催している。平成28年11月に押立文化センターと武蔵台文化センターではじまり、令和3年度には11か所すべての文化センターにおいて開催。また、令和3年度には新町文化センターが週3日開催に拡充し、令和7年度末時点では、9か所の文化センターで週3日の開催となった。令和8年7月からは市内すべての文化センターにおいて、週3日開催になる予定。

困りごとと相談会の機能

拠点機能

- 相談を受ける



- フードドライブの受付



アウトリーチ機能

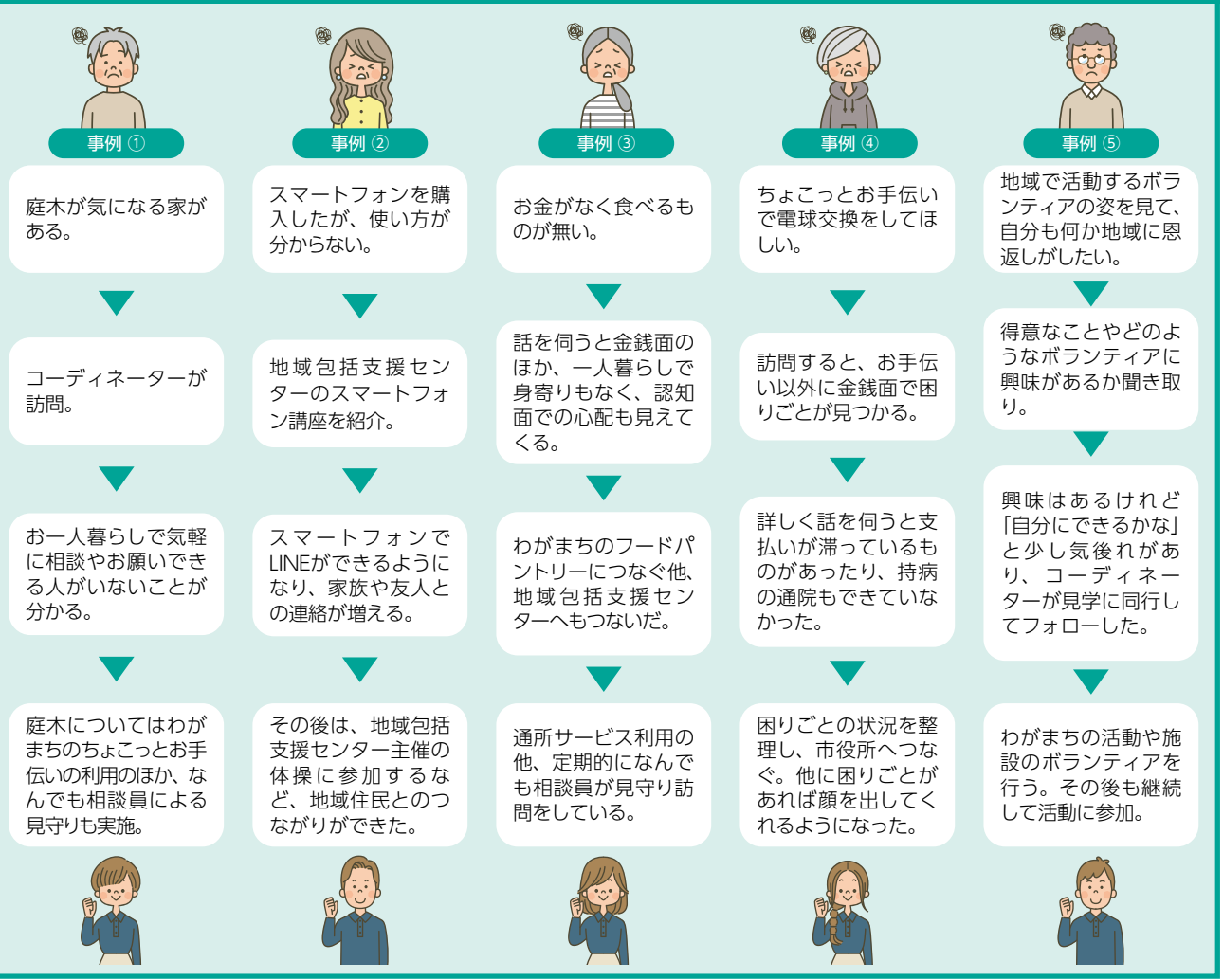
- 地域の方等から、情報収集



- 相談があった方への訪問



「困りごとと相談会」からつながった例の紹介



解決に時間が掛かる相談事例

制度やサービス利用には結びつかない

当てはまるサービスがない、利用要件に当てはまらない、希望と合わない等から利用に至らない場合に、別の社会資源を見つけることに時間を要する。

相談したい内容が明確でない

自身では困りごとの整理ができず、何から手を付けたら良いかわからない。整理をすることや、取り掛かるものを見出すことに時間を要する。

複雑・複合的な問題を抱えている

家族それぞれに問題を抱えていて窓口がバラバラになっている場合は、時間を掛けて情報の整理をした後に、解決の方向を見出していくこととなる。

困っていることを表面化することが難しい

周囲から見て疲弊している様子などから、支援を受けることを提案するも「困っている」という認識が持ちにくい方もいる。

コーディネーターの支援例

伴走支援

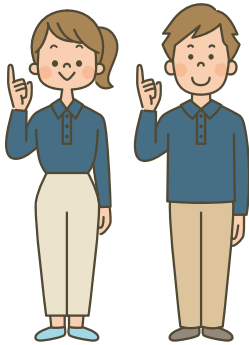
本人と相談内容を整理しながら、主たる窓口を案内するに留まらず、時には一緒に手続きを行う、同行するなどの伴走支援をしている。

定期訪問

定期的に訪問し状況を確認するなど、継続的に様子を確認している世帯もある。

地域の活動や支援者へつなぐ

様々な角度から支援について検討し、制度やサービスの紹介に留まらず、地域活動や地域の支援者へのつなぎを丁寧に行っている。



支援方針が立っても、本人の意向やタイミング等から、1つの相談事を解決するために時間を要することが多数あり解決までに10年を要したケースもある。

勇気を出して窓口に来てくれた相談者に対し、傾聴しながら関係を作り、困りごとを引き出し、解決に向けて動く中で、コーディネーターは調整役として重要な役割を担っている。

また、内部での情報共有を図り、1人のコーディネーターだけではなくチームとして、相談者の支援を進めている。

「困りごと相談会」について市民からの声



相談者①

ずっと一人で悩んでいたけれど、話をきいてもらったことで、次にどこに相談すればいいのかが分かって安心しました。



相談者②

買い物ついでにふらっと立ち寄れる場所にあって助かりました。専門的な窓口に行くのは緊張するけれど、ここなら気軽に話せます。



なんでも相談員

ちょっと気になることがあった時、すぐにコーディネーターに相談できるのが心強いです。相談者が来ない時も、一緒に地域を訪問し、無理なく楽しく活動が続けられています。



わがまちメンバー

電話やメールだと伝わりにくい細かいニュアンスも、近くにいるコーディネーターに直接会って相談できるので、いつも安心して次の準備に取り組みます。



フードドライブ寄付者

いただき物で食べきれず、眠らせておくのはもったいないなと困っていました。快く受け取ってもらえてホッとしましたし、せっかくの食品を無駄にせず、必要とする人に届けてもらえる場所があってありがたいです。



福祉関係者

週3日はコーディネーターが担当エリアの近くにいるため、相談したい時にすぐにやりとりができて、便利になりました。

周知方法

- 周知物「チラシ」配布：市内全戸ポスティング、自治会回覧、各文化センター、掲示板の活用
- SNS発信：ホームページ、他SNSの掲載
- 広報媒体への掲載：市ホームページ、市報、社協広報物
- 会議やイベントにて市民や関係機関へ案内

今後について

文化センターに行けば、「コーディネーターがいる」「話を聞いてもらえる安心な場所がある」ということを知ってもらい、頼ってもらえるよう支援力を底上げしていきたい。また、安定した開催ができるよう、各機関と調整をしていく。若年層への相談対応を充実させるべく、PRや関係機関との連携などを進めていきたい。



ポスティングの様子



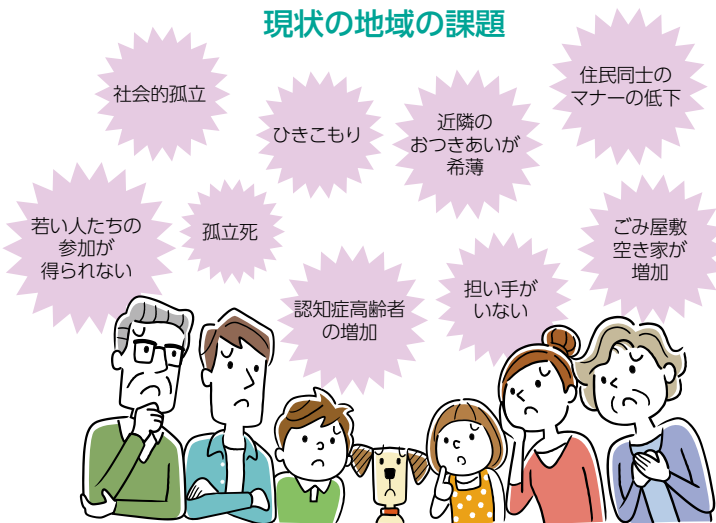
困りごと相談会の様子

わがまち支えあい協議会

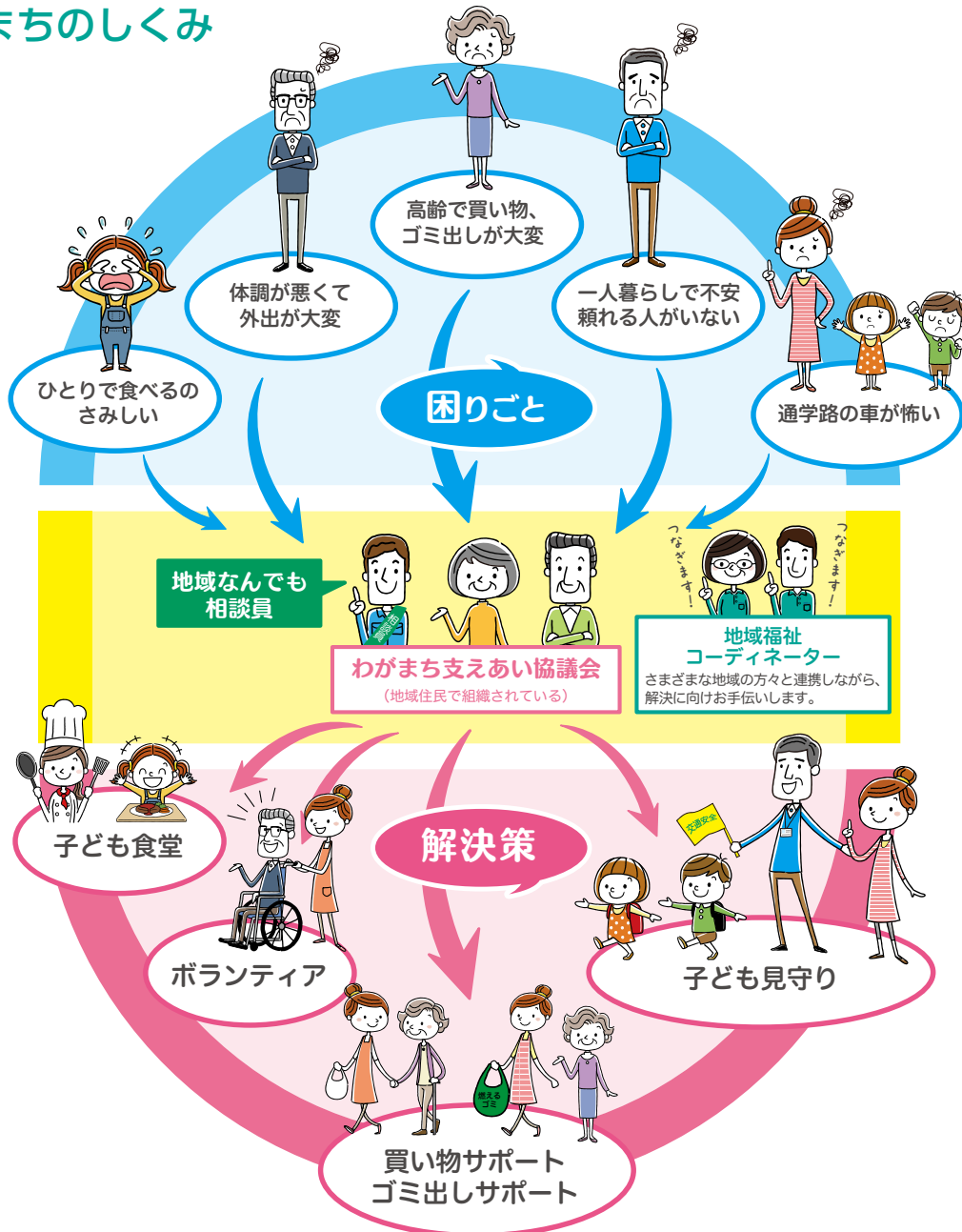
● 立上げを目指すに至った背景

平成26年度に実施した話し合いや、アンケート等から、地域のさまざまな困りごとがわかってきた。(右図) その中には、公的な制度では解決が難しい困りごともあり、誰もが安心して自分のまちで暮らすためには、こうした個人の困りごとを「我が事」として捉え、一人ひとりの困りごとに寄り添い、解決に向けたしくみづくりが必要であることがわかった。

そこで、住民の皆さんのより身近な生活圏域の中で、住民自らさまざまな困りごとに気付き、共有し、一緒に解決していくしくみ「わがまち支えあい協議会」を立ち上げることになった。



● わがまちのしくみ



困りごと相談会

※半日を1回として集計

圏域 (開始年)	開催回数	延べ相談件数	延べ相談者数	相談実人員
中央 (R3.4 ~)	35 回	54 件	57 人	22 人
●白糸台 (R3.4 ~)	161 回	431 件	533 人	96 人
西府 (R3.4 ~)	51 回	87 件	110 人	26 人
●武蔵台 (H28.11 ~)	272 回	589 件	659 人	117 人
●新町 (R1.9 ~)	274 回	1,059 件	1,264 人	216 人
●住吉 (H29.11 ~)	272 回	736 件	819 人	126 人
●是政 (R3.4 ~)	288 回	742 件	722 人	102 人
●紅葉丘 (H30.11 ~)	272 回	1,119 件	1,492 人	234 人
●押立 (H28.11 ~)	271 回	735 件	899 人	99 人
●四谷 (R3.4 ~)	300 回	558 件	629 人	104 人
●片町 (R1.9 ~)	155 回	352 件	454 人	77 人
合計	2,351 回	6,462 件	7,638 人	1,219 人

●※週3日、終日 (9:30 ~ 16:00) 実施へ拡充
R4.2 ~新町・武蔵台、R4.11 ~住吉
R5.2 ~是政、R5.3 ~紅葉丘、R6.10 ~押立・四谷
R7.10 ~片町・白糸台

相談者の属性 (相談実人員の内訳)

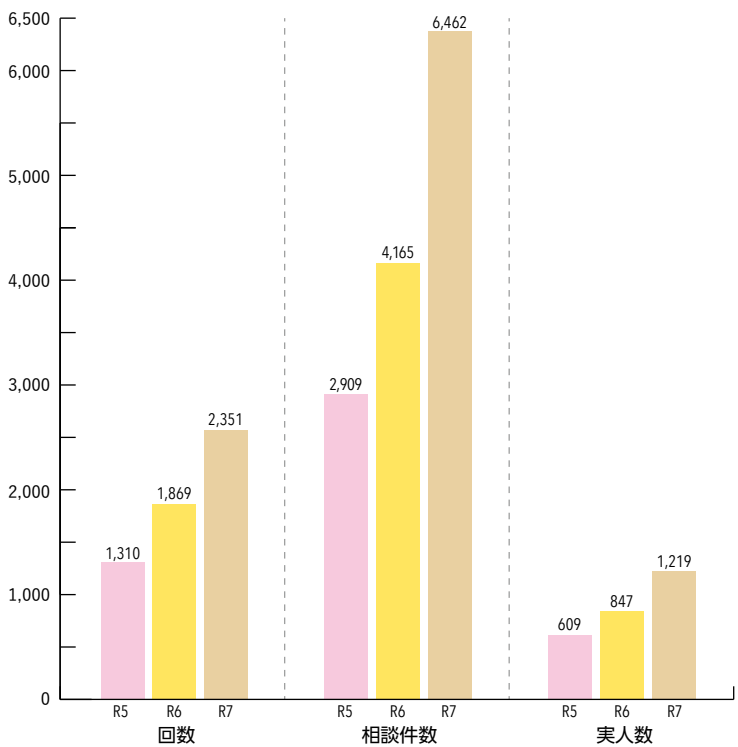
性別

男性	364 人
女性	845 人
不明	10 人
計	1,219 人

年代

子ども (20歳未満)	5 人
20代	18 人
30代	71 人
40代	102 人
50代	159 人
60代	173 人
70代	352 人
80代	193 人
90代以上	40 人
不明	106 人
計	1,219 人

困りごと相談会開催状況の推移
R5年度 ~ R7年度

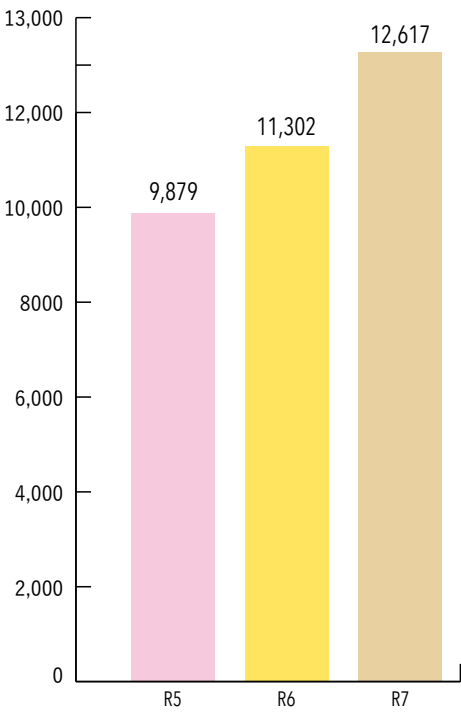


近年、困りごと相談会は開催回数の増回とともに、相談件数および相談実人数が右肩上がり大きく増加している。特にR7年度においては、開催回数が2,351回、相談件数が6,462件、実人数が1,219人に達し、地域の身近な相談窓口として確実に定着していることが伺える。相談会が周知され、拠点が拡充されたことで、これまで潜在化していた多様なニーズが掘り起こされており、それに伴い、持ち込まれる相談内容も複雑化・複合化する傾向が強まっている。こうした課題に対しては、各種関係機関と連携を図り、多角的な視点から対応を行っている。さらに、相談会での対応のみに終わらず、地域住民による見守り体制の構築を検討したり、必要に応じて同行訪問などのアウトリーチを実施したりするなど、本人や家族に寄り添い続ける継続的な支援を実践した。今後も地域住民や関係機関とのネットワークをより一層強化し、誰もが安心して暮らせる包括的な支援体制の推進を目指していく。

地域福祉コーディネーター【個別支援】(件)

圏域	相談経路				相談内容		
	訪問	電話	メール	来所	関係形成	個別支援	連絡調整
中央	310	817	68	207	104	1,079	320
白糸台	166	632	104	247	82	988	448
西府	144	261	75	96	18	461	167
武蔵台	257	319	55	197	38	654	169
新町	319	573	190	440	59	1,360	174
住吉	340	830	191	472	400	1,206	385
是政	142	414	33	291	32	750	127
紅葉丘	193	687	218	474	188	1,199	736
押立	237	470	57	231	35	618	363
四谷	140	289	158	207	126	544	360
片町	139	469	40	192	26	680	145
全域	1	13	3	4	5	11	7
市外・不明	15	97	15	78	19	158	41
計	2,403	5,871	1,207	3,136	1,132	9,708	3,442
合計	12,617				14,282		

【個別支援】相談経路の推移
R5年度～R7年度

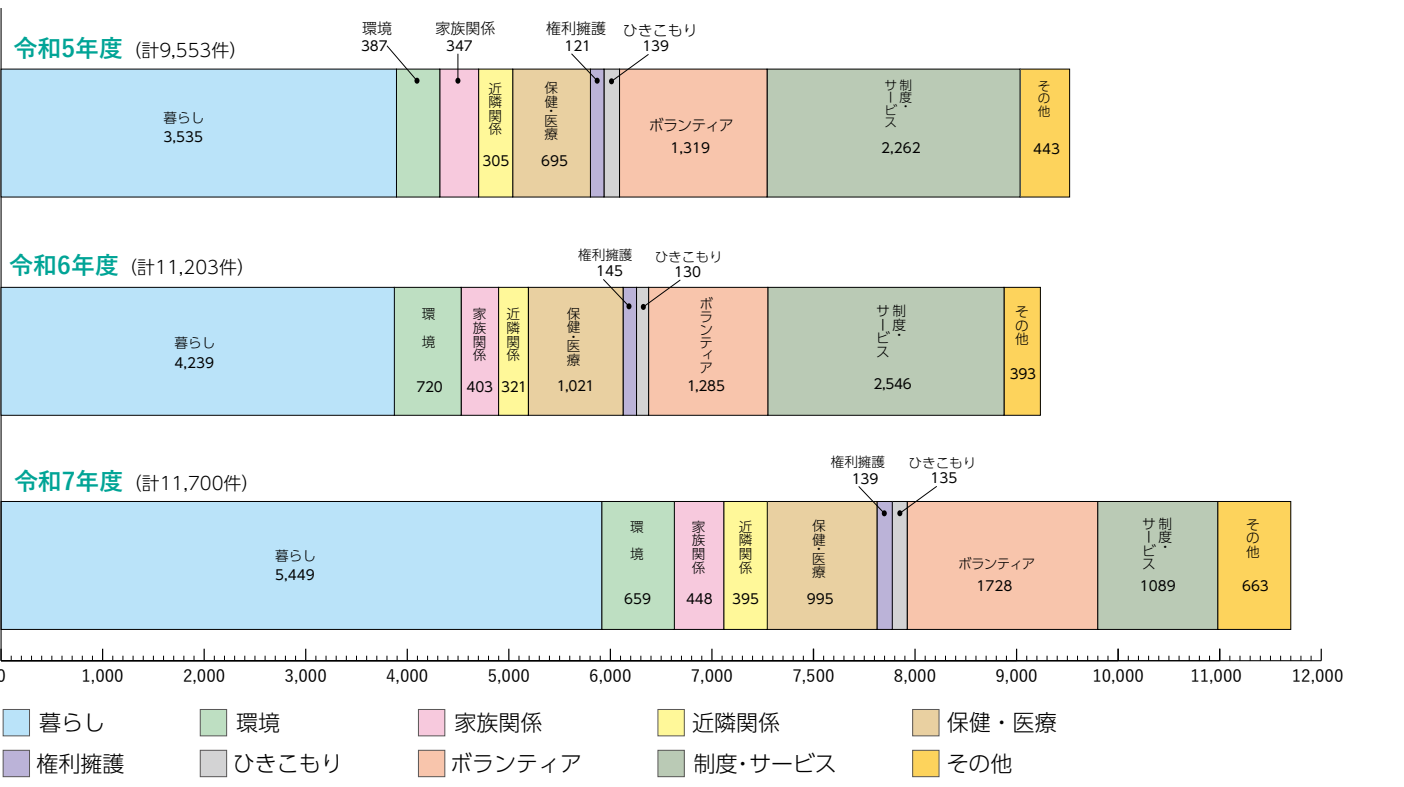


- 個別支援（個別ケースに関する支援）
コーディネーターが本人へ直接かかわること、コーディネーターが本人のために関係機関やわがまち等に相談、調整すること。
- ①相談経路・・・訪問、電話、メール、来所
 - ②相談内容・・・関係形成、個別支援、連絡調整
- ※該当する項目すべてに入力
- ・関係形成（本人との関係づくりのための訪問、関係団体やグループとの関係づくりのための訪問、会議参加、イベント参加）
 - ・個別支援（支援のための訪問、相談、状況確認、関係者との相談）
 - ・連絡調整（本人や関係者との簡易な調整、書類渡し、会議調整）

個別支援の相談は全部で12,617件にのぼった。最も多くの件数を占めたのは「電話」の5,871件であり、全体の半数近くに達している。背景としては、手軽に相談できることや、日頃からつながりのある関係機関がコーディネーターにつないでくれていることも要因である。次に多い経路は「来所」の3,136件。これは、地域の各文化センターを拠点とし、「困りごと相談会」を継続的に開催してきた成果といえる。相談会が地域住民にとっての身近な相談窓口として機能していることが伺える。

3番目に多い「訪問」も2,403件と実績を示している。相談会を拠点とすることで、相談者の自宅へ訪問できる体制があり、気軽に訪問へとつなげることができている。外に出ることが難しい方や、孤立しがちな世帯に対しても、アウトリーチを行い、困りごとを抱える世帯へアプローチできている。

相談内容分類



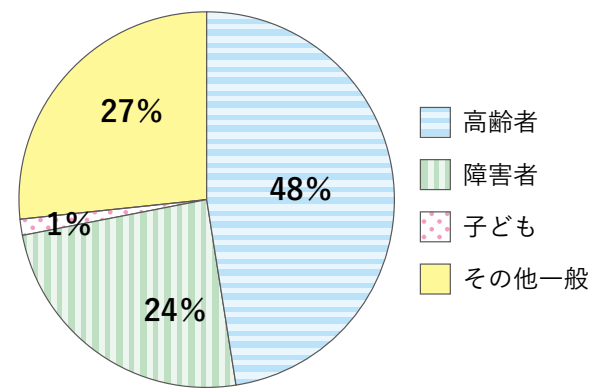
分類	主な相談内容
暮らし	住居(立ち退きなど)、就労、金銭問題(管理不十分など)、食支援、漠然とした不安
環境	庭木、片付け、交通事情(危険箇所)、空き家、ペットの糞尿問題
家族関係	不登校、ヤングケアラー、DV、自虐、虐待、離婚、子との同居・別居
近隣関係	ごみ屋敷、迷惑行為(騒音、徘徊、異臭、大声)、嫌がらせ、安否が心配、子育ての様子
保健・医療	体調、認知症の疑い、病気、医療機関に関すること
権利擁護	訴訟、相続、財産分与、消費者トラブル、成年後見、法律関係
ひきこもり	情報提供、関係形成、関わりを持ってほしい、気にかけてほしい
ボランティア	特技を活かしたい、ボランティアをしたい、ボランティアをしてほしい、食品寄付
制度・サービス	介護保険、住宅セーフネット住まい相談、居住保証事業、介護予防
その他	居場所が欲しい、サロンについて、訪問販売、犬の散歩ができない、個別支援会議に関すること

令和7年度の相談内容を振り返ると、地域の方々の生活に直結する困りごとや、社会情勢を映し出した変化が見えてくる。今年度、最も大きな割合を占めたのは「暮らし」に関する相談で、住居や就労・金銭面の不安、食支援の相談など、日々の生活の困りごとが最も多く寄せられている。長引く物価高なども背景にあると考えられ、漠然とした大きな不安を抱える方も多い印象を受けた。

一方で、前年度（R6年度）に急増していた「環境」や「保健・医療」に関する相談は、今年度は減少傾向となった。そのほか、「制度・サービス」の相談も減少しているが、必要なサービスへの繋ぎや、地域の居場所づくりが定着してきた成果とも言える。

しかし、「家族関係」や「近隣関係」といった、家庭内や地域における孤立・人間関係のトラブルに関する相談は、依然として高い割合を占めている。こうした傾向から、これからは単に窓口や制度へつなぐだけでなく、個々の暮らしの困窮や、周囲には見えにくい複雑な人間関係・心理的課題へ伴走する支援がより重要になっていく。これからも一つひとつの声に耳を傾け、丁寧なサポートを続けていく。

相談対象者分類



延相談対象者数の推移

分類	令和5年	令和6年	令和7年
高齢者	2,921	3,620	4,599
障害者	1,767	1,857	2,369
子ども	1,741	784	140
その他一般	1,047	1,895	2,567
総計	7,476	8,156	9,675

高齢者・障害者に関する相談対象者数は、令和5年度から令和7年度にかけて年々増加している。特に高齢者は約1.6倍に増え、相談対象者数全体の約半数を占めている。障害者やその他一般についても同様に増加しており、子どもを除くすべての分類で相談対象者数が増加する結果となった。

一方、子どもの相談対象者数については大きく減少している。これは、相談実績の集計範囲を見直したことによるものであり、子どもに関する相談ニーズそのものが減っているわけではない。

実相談対象者数の推移

圏域	令和5年	令和6年	令和7年
紅葉丘	117	245	265
白糸台	124	123	162
押立	63	123	114
是政	105	169	158
新町	211	260	289
中央	173	168	209
片町	113	125	160
武蔵台	172	178	148
西府	87	110	99
住吉	188	190	231
四谷	103	109	130
その他、市外	26	35	62
計	1,482	1,835	2,027

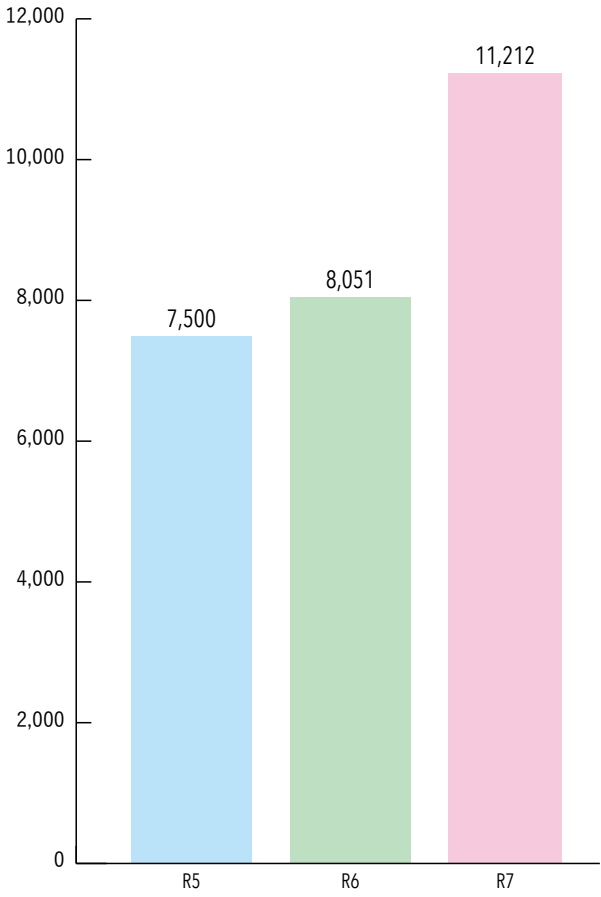
実相談対象者数についても、全体では約1.4倍に増加している。もともと相談していた方への支援回数が増えたというよりも、新たに相談につながる方が広がってきていることがうかがえる。圏域別に見ると、紅葉丘が2倍以上に増加しており、その他・市外についても増加が見られ、全体としても多くの圏域で増加傾向にある。

令和6年度から令和7年度にかけての変化を見ると、押立・是政・武蔵台・西府では件数がやや減少している一方、白糸台・中央・片町・住吉・四谷では件数が伸びている。相談会を週3回に増やしたことや、身近な相談窓口として少しずつ利用されるようになってきていると考えられる。このように、実相談対象者数の増加は市内全域で一律に生じているのではなく、各圏域における生活課題の現れ方の違いや、相談窓口の周知・定着が進むペースの違いによるものと考えられる。

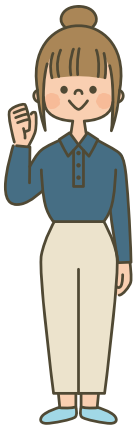
地域福祉コーディネーター【地域支援】^(件)

圏域	相談経路				相談内容			
	訪問	電話	メール	来所	関係形成	立上支援	運営支援	連絡調整
中央	263	97	27	49	33	8	325	108
白糸台	339	169	442	66	64	10	925	743
西府	210	68	165	40	15	3	328	209
武蔵台	441	117	62	48	14	0	529	114
新町	578	311	178	210	28	8	1,163	116
住吉	587	118	134	91	158	0	690	247
是政	471	100	259	86	21	4	451	447
紅葉丘	564	382	561	338	107	1	1,412	950
押立	481	79	442	28	41	2	620	370
四谷	527	141	340	79	88	1	826	434
片町	268	105	434	85	13	2	395	488
全域	275	61	62	64	61	10	350	120
市外・不明	18	29	102	21	11	0	53	116
計	5,022	1,777	3,208	1,205	654	49	8,067	4,462
合 計	11,212				13,232			

【地域支援】相談経路の推移
R5年度～R7年度



地域支援の相談内容は、「運営支援」が8,067件と、地域活動を力強くバックアップできている。また、相談経路では「訪問」が5,022件と最も多く、積極的に地域の現場へ出向き、丁寧に築いてきた成果があらわれている。こうした日々の支援に加え、令和3年に市内11か所で発足したわがまち支えあい協議会の取り組みもさらに前進している。「わがまちタウンミーティング」や「わがまち説明会」を開催したほか、地域活動情報誌『Connectふちゅう』を発行したことで、地域の情報が広く行き渡り、新たな活動者の増加にもつながっている。これからも、地域のつながりを大切に育みながら、地域の方々が主役となる温かい地域づくりを支えてきたい。

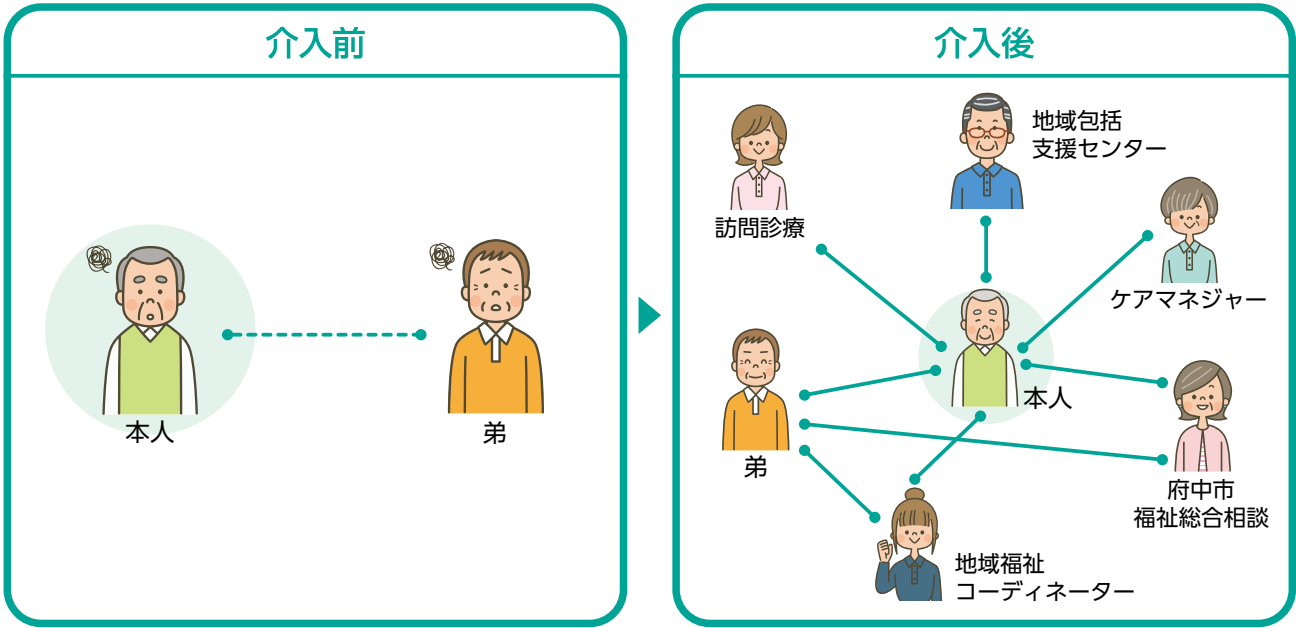


① 家族のSOSから始まる、孤立した兄と不安を抱える弟への伴走支援

概 要			
本人の弟からつながったケース。弟が連絡のつかない兄を心配して、警察同行で兄宅を訪問したところ、セルフネグレクト状態の兄を発見した。本人は脳梗塞の後遺症や抑うつ症状があり、生活や手続きが困難な状態だった。多額の負債もあり、自宅内も荒れ、社会的に孤立状態にあり、そのままにしておくのは危険な状態だった。弟から兄への支援についての要望があり、弟も精神疾患を持ち、不安定な状態だったため兄弟双方への支援にコーディネーターが関わることになった。			
相談者	近隣社協・弟	対象者	本人（59歳男性）

支援の流れ	ケースの動き		コーディネーターの動き
関わり開始		【訪問状況確認】 週2回の安否確認と健康状態、関係性作りのため訪問。本人の困り事と今後の生活について本人の思いを聞き取り。	・週2回の訪問。 ・現在の状況整理。
1ヶ月		【生活基盤を整える】 食事や入浴、通院・服薬が途絶えていたため、医療受診のための環境調整を最優先した。現場の手続き等は弟が動くため、その手順の組み立てを支援した。	・週1回の訪問。 ・抱えている課題の交通整理。 ・やるべきことの優先順位を一緒に考える。 ・弟の精神的負担や手続きをフォロー。
3か月		【支援機関へつながる】 手続きが進んだことで訪問診療が開始された。また、弟の動きが契機となり府中市福祉総合相談や複数の支援機関が介入することとなった。そこで、現在は、課題となっている多額の負債や各種手続き、家族関係への対応を多機関が連携して支援を行うための会議を実施することとなった。	・月1回の訪問。 ・各関係機関との連携。 ・訪問看護ステーションの調整。
5か月		【課題の整理】 関係機関による会議を実施。それぞれの専門性や強みを活かした今後の支援方針について検討。負債の整理、退職手続き、介護保険の申請など、多岐にわたる手続きや課題を抱えているため、これらに優先順位をつけ、本人と弟の負担を軽減できるよう、各手続きのフォローを進めた。	・負債をすべて洗い出し。 ・退職手続きや書類関係のサポートを行う。
6か月		【本人と弟へのフォロー】 介護保険サービスの導入にともない、各関係機関による見守り体制が整う。週1回のデイサービスも利用しながら、入浴機会が確保できたことにより、衛生面は徐々に改善。一方で、弟の負担の大きさが懸念されるため、各種手続きのフォローや、弟の思いや悩みを傾聴し、精神的なサポートに回った。	・弟の心理的負担に寄り添う。 ・今後出てくる課題に対して本人の意向を確認。
12か月		【手続き関係のフォロー】 金銭面での課題が残っているため、一つ一つ整理を行う。見守りはサービスや家族で行えているため、コーディネーターは手続き関係でつまづいているところなどのフォローに回った。	・課題の整理。 ・手続き関係のフォロー。

■ 本人周辺の変化

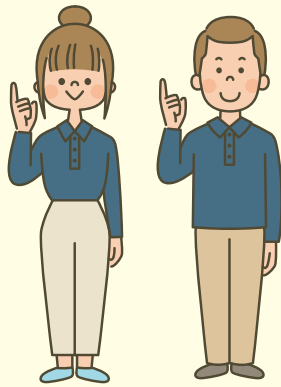


■ 現在の様子

- 週1回程度ひとりで買い物に行けるようになり、2か月に1回の訪問による手続きのフォローや見守りを継続。定期的なサービス利用も定着し、衛生面についても少しずつ改善がみられている。

■ 支援の振り返り

- 当初は医療とのつながりが途切れていたが、週1回の訪問を重ね、弟や各機関と連携したことで、サービスにつながり、生活の安心感や衛生面が改善してきた。
- 本人支援に加え、精神疾患を抱える弟にも視点を向け、家族がキーパーソンを担うのではなく適切な支援機関につなぎ、他機関と連携しながら支援を進めることができた。
- 山積していた課題の優先順位を整理し、金銭面の整理や手続きの困りごとなどをフォローできた。

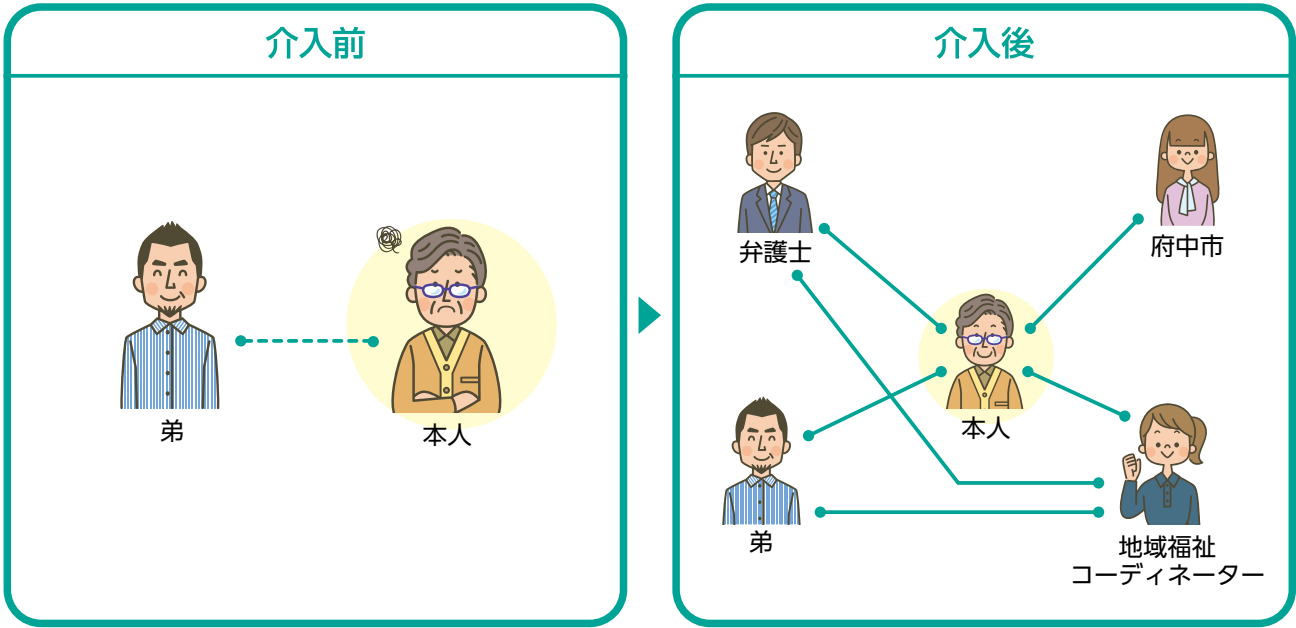


② 孤立状態にある困窮世帯の住まいと生活を守るための伴走支援

概 要			
離職し、1人で生計を立てて生活することが難しくなり、市役所へ相談。生活保護の対象とはならず、市役所から社協へ相談が入り、コーディネーターとつながる。年金を早期受給し、安定した収入が見込めるも、衝動的な支出が多く、金銭の管理が難しい状態であった。コーディネーターとの関わりの中で支出の優先順位を整理し、その都度管理の補助をしてきた。転宅を迫られる場面では、本人だけでは見通しが立てられず、家を失いそうになったが、疎遠になっていた親族へつなぎ、住まいを確保することができた。転居後の生活も引き続き見守っている。			
相談者	本人・市役所	対象者	本人（60代男性）

支援の流れ	ケースの動き		コーディネーターの動き
関わり開始	 気づく  受止める	【初回面談を実施】 離職し生活費が足りなくなり、本人が生活福祉課自立生活支援担当(以後、自立担当)に相談。 その後、生活福祉課からコーディネーターに連絡があり面談を実施した。	・状況を整理し、今後の生活について見立てを立てる。
1ヶ月	 支援する	【課題の見直しを行う】 収入はあるものの、固定支出や衝動的な支出が多く、生活が安定しなかった。本人と支出の優先順位について確認を重ねた。	・週1回の訪問、面談を続け、債務状況の把握と書類の整理。 ・生活の優先順位を一緒に考える。 ・各種支払い手続きの整理・フォロー。
7か月	 連携する	【市担当課と連携する】 優先順位を決めるも、家計が回らず。貯蓄が底をつく。 自立担当と連携し、負債の整理や見通しを立てる。	・市役所での面談に同行。 ・市担当と連携し、フォロー。
9か月	 つなぐ	【弟の関わりが始まる】 離婚が成立し、弁護士から退去命令の通知が届く。 転宅先も見つからず、家を失いそうになる。 疎遠になっていた弟に頼ることに対して本人は、不安げな様子があったため、コーディネーターが連絡をした。 短期間だが金銭管理をしてもらえることになる。	・退去手続きを整理し、弁護士や弟との連携をした。 ・支援の優先順位を再検討する。
10か月	 つなぐ  受止める	【弟へのフォロー】 弟と役割分担して、本人宅を訪問し、様子を確認。 弟の負担について聞き取り、フォローした。 本人と弟が支援から離れた後のことについて検討した。	・本人の意向に寄り添った支援の継続。 ・弟の精神的負担や手続き負担をフォロー。
12か月	 支援する	【転居後の生活をフォロー】 弟が支援から離れ、本人だけで生活を営むことになる。 転居後、転居先の担当コーディネーターへ引継ぎ、見守る。	・定期的な面談や訪問。

■ 本人周辺の変化

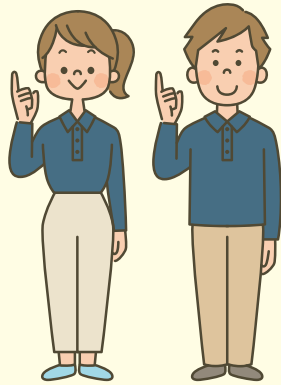


■ 現在の様子

- 専門機関による様々な支援が入ったものの、現在はコーディネーターのみが定期的につながっている状況。相談会への来所を促したり、定期訪問を継続したりして、必要に応じて、再度関係機関につなげられるよう意識して関わっている。
- 本人の強みとして、「SOSを発信できる力」を活かし、現在は住まいの近隣住民にも助けてもらいながら、生活している。コーディネーターは、その近隣住民とも連携を取り、お互いが安心して生活していける環境づくりを行っている。

■ 支援の振返り

- 本人の特徴や行動傾向を長期的な関わりの中で丁寧に捉え、関係機関とのつながりが途切れやすいという本人の課題に配慮しながら、本人の意向やペースに寄り添った伴走型の支援が実践できている。
- 家族関係に課題がある中、間に入って丁寧に関係調整を図ることで、疎遠だった弟の協力を引き出すとともに、他機関と密に連携して本人の意向に沿った住まいの確保や手続きのフォローを行うことができた。



③「SOSを出せない世帯」に寄り添い、自立に伴走する

1.きっかけ

母親が万引きをしたことで、警察署から「万引きは初めてのようで、生活費が足りず万引きをしてしまったらしい。生活面が心配。」と地域包括支援センター（以下、包括）に連絡が入る。包括から、「高齢の母親については支援していけるが、同居の息子は年齢的に包括の対象外となる。息子を含めた世帯全体を連携して支えられないか」とコーディネーターに連絡が入り世帯への関わりが始まった。

2.支援の流れと成果（下図参照）

(1)生活を整える

聞き取りを重ねる中で、これまでは息子の就労収入と母親の年金で生活してきたが、息子の離職により、収入が途絶え、生活が苦しくなったことがわかる。また、近くに頼れる親族がおらず、「全て自分たちで解決しなければならない」というこれまで他者に相談したり頼ったりした経験が乏しかったことが、SOSを出しづらくさせていた。この課題を踏まえ、生活保護の制度が、「自分たちの力で再び生活できるようになるまで利用できる」仕組みであることを紹介した。本人の意向を確認した上で、コーディネーターが生活保護申請の予約から手続き、受給開始に至るまでの道のりを伴

走的に支援した。

(2)継続的な支援

生活保護の受給開始後は、計画的な金銭管理、生活ができているかを確認するため、定期的に訪問した。その後、息子の仕事が決まり、生活保護の受給が終了してからも、仕事の様子や体調、金銭面の確認を含め、定期訪問を継続している。「安心して相談できる専門機関」としてのつながりを持てたことで、訪問を重ねるごとに、世帯から少しずつ困りごとを打ち明けてくれるようになってきている。

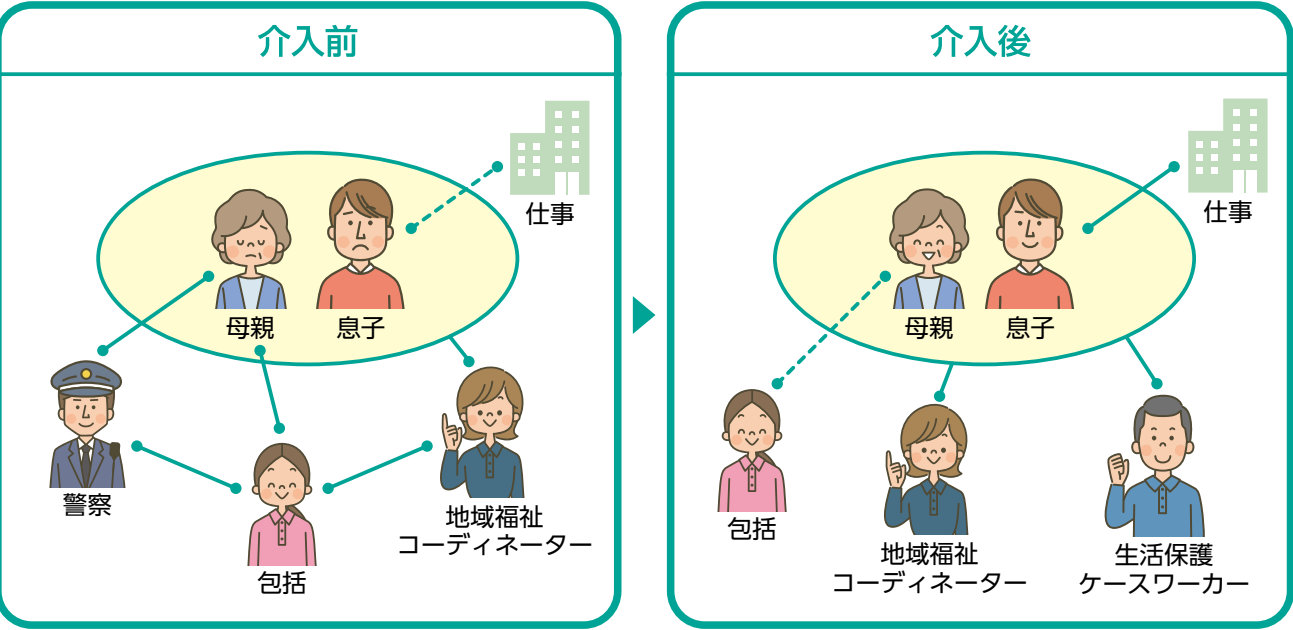
3.今後に向けて

今後も生活の安定が維持できるよう、何か気になりなことが生じた際に、「まずはコーディネーターに相談してみよう」と自然に頼ってもらえるような、心理的なハードルを下げる働きかけを続けていきたい。

また、地域なんでも相談員等にも関わってもらい、徐々に地域とのつながりを広げていく。

個人の困りごととして終わらせず、「地域全体の困りごと」として捉え直し、地域全体で温かく見守りの目を持ってもらえる機会としていきたい。

■本人周辺の変化



④「制度の隙間」を地域で埋める ～部屋の片づけを通じて地域社会とつながった20代の自立支援～

1.きっかけ

府中市の生活福祉課自立生活支援担当から相談が入る。20代で大学在学中にうつ病を発症。卒業したばかりだが、発症後はなかなか動けず部屋にゴミが溜まってきている状態であった。本人が直接相談会へ来所し、主に「就労」「経済」「部屋の片づけ」の3点に困っていると話を伺う。状況を確認したところ、就労と経済面はすでに専門機関が介入していたが、部屋の片づけに対応できる機関がない状態であった。そのため、この「隙間の課題」に対してコーディネーターが対応を担うこととなった。

2.支援の流れと成果（下図参照）

(1)地域につなげる

生活歴を伺う中で、かつて家庭内でヤングケアラー状態にあり、孤独を抱えてきた様子が見て取れた。ボランティアによる片づけについて、本人から「女性であれば大丈夫」との意向を確認。業者の活用は「金銭的・精神的な負担からハードルが高い。仕事が決まったら利用したい」との返答があった。部屋を訪問すると、物量は多いがゴミと必要なものはある程度分かれていた。ここで無理に業者を勧めて本人との関係が切れるリスクを考慮し、まずはコーディネーターと本人で3回一緒に片づけを実施。本人の様子から「ボランティアでも対応可能」と判断し、ボランティアへ状況を説明の上、30分程度のちょっとした生活支援を実施する仕組みをつくった。

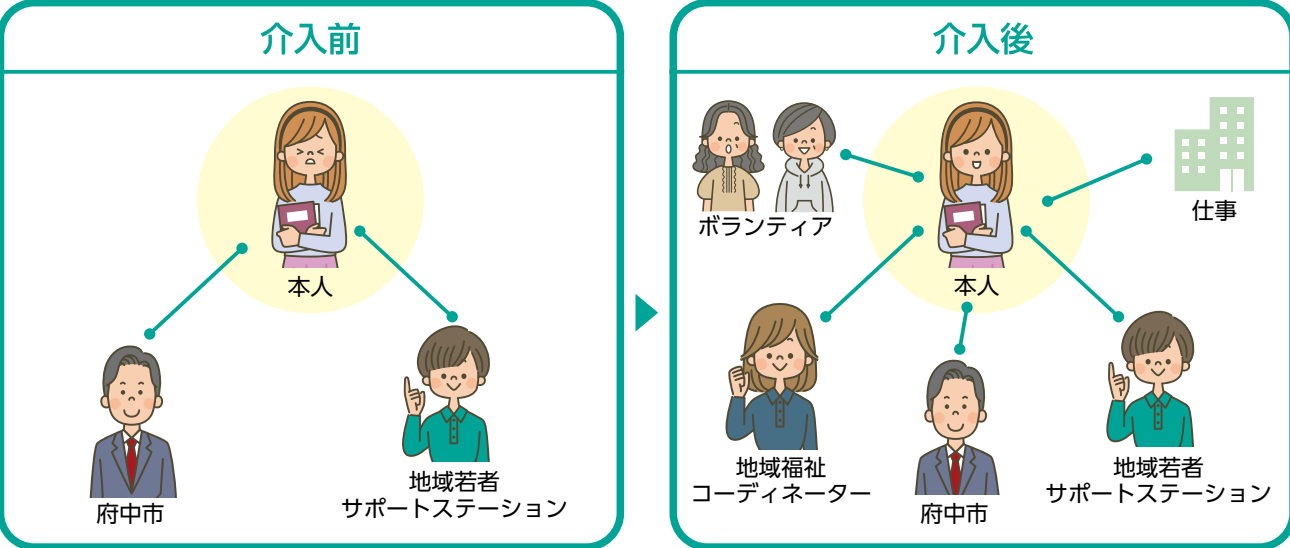
(2)伴走的な支援

最初はコーディネーターを交えて片づけを行い、徐々に複数人のボランティアがローテーションで関わる形へと移行。回を重ねて関係性ができたことで、最終的にはコーディネーター不在でもトラブルなく対応できるようになり、目標としていた入職月前までに片づけを終了することができた。環境整備と並行して、本人と支援者によるケア会議を開催。各機関の役割分担を再確認した。また、あえて地域のボランティアに関わってもらうことで、本人にとっては「地域に気に掛けて見守ってくれる人がいる」という安心感に繋がり、ボランティアにとっては「地域で困っている人の存在を知り、地域の困りごととしてともに考えていく」機会となった。

3.今後に向けて

無事に就労が始まったものの、不安定な時期を乗り越えたばかりであり、急激な環境の変化による体調や精神状況、生活環境への影響が心配される。また、就労等に伴い他機関の支援は終結したため、今後は孤立を防ぐための継続的なモニタリングが必要な段階となる。定期的な訪問や連絡を通じて様子を確認し、「困ったときにいつでも頼れる先」としての関係づくりを継続していく。若い世代は地域とのつながりが希薄になりがちだが、今回の関わりを機に周囲が本人を理解し、地域の中で孤立することなく、安心して暮らし続けていけるよう今後も緩やかな伴走を続けていきたい。

■本人周辺の変化



※地域若者サポートステーション:働くことに悩む15～49歳の方を対象とした厚生労働省委託の就労支援機関。個別相談やプログラムを通じて自立に向けた一歩をサポートしている。

わがまちタウンミーティング

概要説明

住民同士の支えあいを推進するため、市内全域での情報共有や学習の機会、活動者同士のつながりの機会などテーマを決めて、開催している。

わがまちタウンミーティング（令和7年12月6日）実施

●テーマ

「知ることから、つながりの輪が広がる ～ひきこもりの本人・家族の想い～」

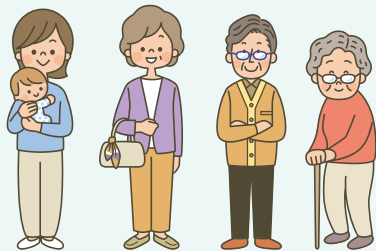
参加者：92名

●目的・内容

- ・地域にある課題としてひきこもりの現状・本人家族の想いを知り、正しい理解を広める。
- ・ひきこもりの支援を進めていくうえで、家族会はひきこもり家族の孤立を解消するための社会資源の1つとしてあるが、府中市には存在しないため、立ち上げの足掛かりとする。
- ・地域活動をされている方が、ひきこもりを地域課題として捉え、話し合うきっかけとする。

●参加者の声

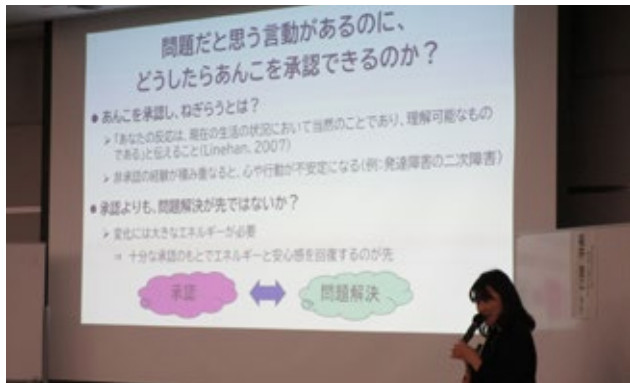
- ・ひきこもり状態にある人との接し方が少しだが、理解できたと思う。
- ・会話について、返事がなくても気にしないことがコツ。どうしても本人と会話がしたくて質問をしてしまうことがあったが、こちらが気にかけて話していることが大事ということが分かった。
- ・「対話とは、お互いが違うところを話し合うこと」の部分が印象に残りました。自分ばかり話をせず、相手の話をきちんと聞くことを普段の生活でも意識していかなければいけないと思った。
- ・人の尊厳を認める。ありのままを受け入れるのはすべての人とのかかわりにおいて大切なことだと感じている。
- ・ひきこもり状態にある人は50人に1人いるということで、すごく多くの人がある状態ということを知った。
- ・支援者は「ひきこもりの人を支援する」という考え方をやめるという言葉にドキリとした。



成果

- 当事者への理解とともに、家族支援の必要性についても多くの共感の声が寄せられた。家族会については当事者家族の意見を踏まえながら検討していく予定。
- 地域活動されている方に、ひきこもりを地域課題の1つとして捉えてもらうことができた。

タウンミーティングの様子



地域なんでも相談員

概要説明

「地域なんでも相談員」は、平成28年度から活動しており、地域のちょっとした気になること・心配事などをコーディネーターやわがまちへとつなぎ、解決に向けて一緒に考えていく役割を担っている。現登録者数（R8.3月現在204名）

地域なんでも相談員に関わる活動

●地域なんでも相談員養成研修 年1回

相談員に登録するための研修。

内容) ①地域なんでも相談員の役割

②一人の困りごとから地域での支えあいを検討する

③地域の「わがまち支えあい協議会」への参加

④地域なんでも相談員登録説明

●連絡会 年1回

各わがまちが取り組んでいる活動の共有やテーマ学習、相談員同士の日頃の活動の共有や交流等を図ることと、相談員としての活動の幅を広げることを目的に開催。令和7年度は、地域包括支援センターを講師依頼し、認知症について学ぶと共に、相談員が認知症の方の見守りをした事例を紹介し、相談員同士での懇談を行った。

●困りごと相談会への参加

相談対応の研鑽と実践の場として、市内の文化センターで行われる相談会で相談対応をする。

●見守り・声掛け

コーディネーターが関わる地域で孤立しがちな方を対象に、相談員が定期的に見守り・声掛けの活動を行う。

●ふわりまち歩きシート

日常生活の中で気づいた地域の困りごとや、地域資源を記録し、コーディネーターに報告する。

●エリア懇談会

小さな圏域に分かれて実施。相談員の横のつながりを作り、地域の現状や課題を共有。相談員活動の活性化につなげる。令和7年度は、8エリアで懇談会を開催。エリア懇談会からまち歩きの活動にもつながっている。

●地域なんでも相談員活動ハンドブック

相談員の概要や活動方法が1冊でわかるハンドブックを作成。全相談員が所持しており、活用中。

連絡会



まち歩きの振り返り



広報誌の発行「Connectふちゅう」

概要説明

新たな人材や企業とつながっていくために、地域活動の情報を発信。より多くの人に地域活動を知ってもらい、目に触れる機会を増やすことで、企業・団体・個人など、幅広い層へその魅力を届けたい。そんな思いから、令和4年度に地域活動情報誌「Connectふちゅう」を創刊した。当初は年2回の発行だったが、令和6年からは年3回発行に増回した。毎回テーマを変えながら、地域活動に関する内容を紹介し、新聞折込のほか、チラシ（新聞を購読していない世帯にも配布できるサービス）を活用し、関係機関への設置や、地縁団体・地域の集まりでの配布も行っている。あわせて社協ホームページにも掲載することで、より多くの方の目に触れる機会をつくってきた。これからも、地域活動を「自分も関わられるかもしれない」と、自分ごととして感じてもらえるよう発信を続け、支えあいの活動が広がり、活性化していくことを目指す。

バックナンバー（vol.1～vol.10の表紙）

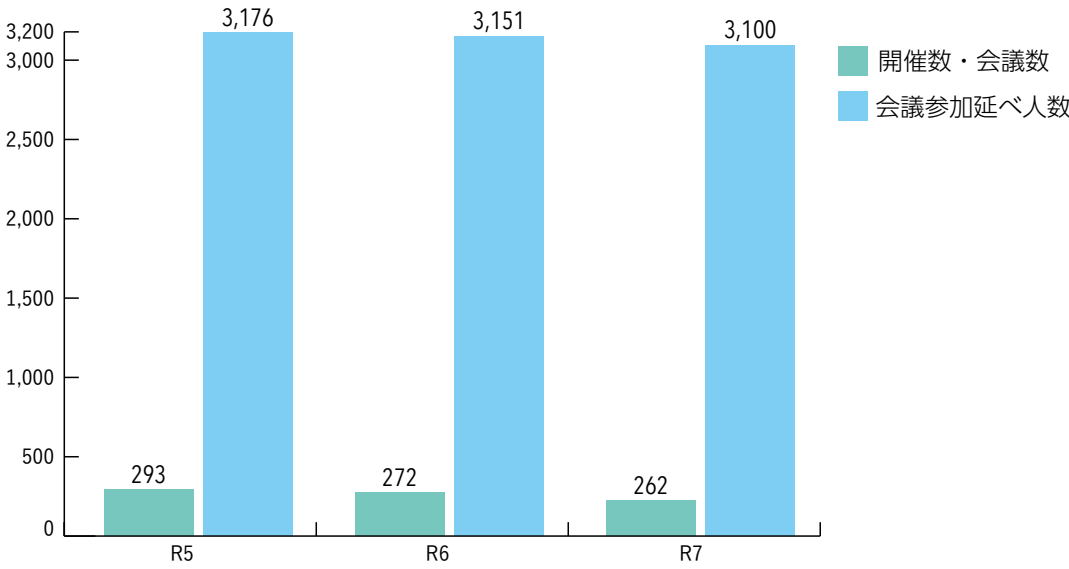


わがまち支えあい協議会開催状況

開催回数 262 回（定例会、臨時会、役員会、各種会議） 活動者数 延 3,100 人

圏域	令和 7 年度実績	
	開催回数	延べ参加者人数
中央文化センター（中央ささえあいの会）	13 回	244 人
白糸台文化センター（ささえあいの会 ～白糸台・若松町・清水が丘・小柳町～）	24 回	301 人
西府文化センター（にしふエリアささえ愛の会）	28 回	194 人
武蔵台文化センター（武蔵台・北山・西原ささえあいの会）	24 回	309 人
新町文化センター（新町ささえあいの会）	32 回	370 人
住吉文化センター（住吉・分梅・南町ささえあい協議会）	31 回	344 人
是政文化センター（わがまち支えあいの会 ～小柳・是政・清水が丘エリア～）	28 回	355 人
紅葉丘文化センター（わがまちありすの会 ～朝日・多磨・紅葉・若松～）	24 回	257 人
押立文化センター（押立・車返ささえあい協議会）	21 回	157 人
四谷文化センター（ささえあい四谷）	18 回	275 人
片町文化センター（かたまち支えあいの会）	19 回	294 人
合計	262 回	3,100 人

わがまち支えあい協議会開催状況の推移
R5年度～R7年度



毎月1回の定例会には、地域住民をはじめ、自治会や民生委員、学校、福祉関係者など多様な方々が集まり、地域の現状や課題を熱心に話し合ってきた。近年の開催状況を見ると、開催回数・参加人数ともにわずかに減少傾向にある。これは、会議の効率化や開催方法の見直しなど、柔軟な運営スタイルへのシフトが進んでいることも一因と考えられる。

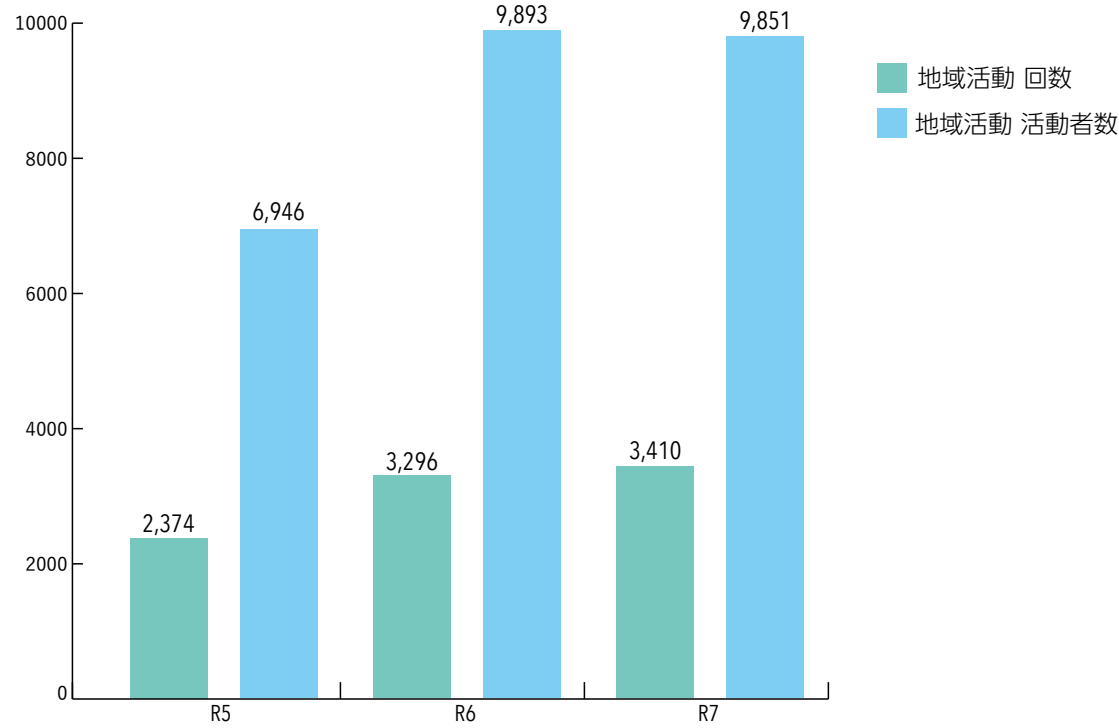
11か所のわがまちが地域の特性を生かし、居場所作りや生活支援などを継続している意義は極めて大きい。今後はこれまでの規模にこだわらず、現場に負担のない持続可能な運営の在り方をともに模索していく時期に来ているともいえる。若い世代が参画しやすいよう工夫を凝らしながら、お互いが無理なく細く長く支えあえるネットワークを地域とともに育てていきたい。

わがまち支えあい協議会による地域活動

開催回数 3,410 回 活動者数 延 9,851 人

圏域	令和 7 年度実績	
	回数	延べ活動者数
中央文化センター（中央ささえあいの会）	174 回	461 人
白糸台文化センター（ささえあいの会 ～白糸台・若松町・清水が丘・小柳町～）	283 回	678 人
西府文化センター（にしふエリアささえ愛の会）	539 回	1,254 人
武蔵台文化センター（武蔵台・北山・西原ささえあいの会）	65 回	343 人
新町文化センター（新町ささえあいの会）	234 回	1,320 人
住吉文化センター（住吉・分梅・南町ささえあい協議会）	172 回	923 人
是政文化センター（わがまち支えあいの会 ～小柳・是政・清水が丘エリア～）	902 回	1,602 人
紅葉丘文化センター（わがまちありすの会 ～朝日・多磨・紅葉・若松～）	253 回	869 人
押立文化センター（押立・車返ささえあい協議会）	243 回	1,081 人
四谷文化センター（ささえあい四谷）	483 回	1,057 人
片町文化センター（かたまち支えあいの会）	62 回	263 人
合計	3,410 回	9,851 人

わがまち支えあい協議会による地域活動の推移
R5年度～ R7年度



わがまち支えあい協議会ボランティア説明会実績

R7 年度	わがまち東部圏域	わがまち中央圏域	わがまち西部圏域
開催数	1	1	2
参加者数	10	15	7

わがまち支えあい協議会による地域活動は、回数・活動者数ともに高い水準での推移や増加がみられる。この背景には、地域の困りごとや特性、強みを活かした新たな活動体が立ち上がり、多様な地域ニーズへの柔軟な対応が着実に進んでいることがある。こうした住民の主体的な動きを後押しするため、地域福祉コーディネーターにおいては「わがまちタウンミーティング」や「ボランティア入門研修」を展開してきた。地域に寄り添い、新たな活動者が一歩を踏み出すきっかけづくりや、担い手を増やす応援に努めてきたことが、現在の活発な地域活動の継続へとつながっているとも言える。

地域福祉コーディネーターがわがまちの協力者を増やすために企画・実施している。

外部会議・研修への参加・講師協力

会議等

【生活支援コーディネーター（1層）（2層）】

※生活支援コーディネーターは市内全域を担当する1層と、11の各圏域を担当する2層に分かれて配置されている。

- ・地域課題検討会議（1.5層会議）
- ・府中市介護予防事業検討会議、作業部会
- ・府中市地域リハビリテーション活動支援検討会議
- ・府中市認知症地域支援推進員連絡会
- ・短期集中予防サービス事業に係る自立支援ケア会議、評価会議
- ・生活支援コーディネーター連絡会
- ・晴見町連携づくり会議
- ・紅白SC連絡会
- ・SCお話し会
- ・府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会
- ・介護者応援ボランティア連絡会

【地域福祉コーディネーター】

- ・府中市民生委員児童委員協議会（地区協議会）
- ・府中市子ども・子育て審議会
- ・府中市地域子ども・子育て応援連絡会
- ・府中市ヤングケアラーネットワーク会議
- ・府中市在宅医療・介護連携会議（日常の療養支援部会、認知症部会）
- ・府中市市民協働推進会議
- ・ファンファーレ及び価値共創促進事業に係る報告会
- ・府中市障害者等地域自立支援協議会（くらし部会、懇話会）
- ・府中市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム連絡会議
- ・府中市精神保健福祉事例検討会
- ・府中市特定相談支援機関連絡会
- ・相談支援包括化推進会議
- ・府中市地域福祉計画等策定のための11圏域別グループディスカッション
- ・フードバンク府中 定例会
- ・介護認定審査会
- ・つながろう会（高次脳機能障害者支援関係者連絡会）
- ・北多摩南部ブロック地域福祉コーディネーター担当者会議
- ・高齢者地域支援連絡会
- ・運営推進会議(高齢者施設)
- ・府中市自殺対策関係者連絡会

研修等

【生活支援コーディネーター（1層）（2層）】

- ・生活支援コーディネーター（初任者、現任者Ⅰ、現任者Ⅱ）
- ・介護予防事業従事者研修
- ・市区町村介護予防事業担当者向け研修（総論、通いの場スキルアップ、サービス・活動事業）
- ・第53回E S S E N C E 研究会 高齢者就労支援プロジェクト
- ・第1回東京都認知症地域対応力向上研修
- ・NPO法人地域共生開発機構ともつくオンライン講演会
- ・東京都認知症地域対応力向上研修
- ・若年性認知症相談支援研修（基礎、フォローアップ）
- ・若年性認知症に関する企業向け、介護・障害者向け研修会
- ・生活支援体制整備事業に係る情報交換会

- ・在宅療養・介護連携推進事業に係る市町村担当者等研修研修会議Ⅰ
- ・人生100年時代社会参加マッチング事業「シニア・プレシニア世代の社会参加促進に関するコーディネート向上研修」
- ・フレイル研修会
- ・府中市認知症疾患医療センター研修
- ・オンラインシンポジウム「包括的な支援体制の整備について、福祉と防災の連携から考える」
- ・東京都A C P 推進事業医療介護関係者向け研修
- ・府中市協働共創推進課主催の講演会 実践者から学ぶ地域ボランティアの魅力
- ・重層的支援体制整備事業後方支援事業 事例報告会
- ・区市町村介護予防事業担当者向け研修 サービス・活動事業研修「総合事業デザイン研修」、「スキルアップ研修」
- ・第2回地域づくりをすすめるコーディネーター連絡会
- 【地域福祉コーディネーター】
- ・区市町村社協地域福祉コーディネーター養成研修（基礎、実践、実地）
- ・地域づくりをすすめるコーディネーター連絡会
- ・地域福祉コーディネーターリーダー研修会
- ・地域福祉の推進に向けたシンポジウム
- ・災害ボランティアコーディネーター養成講座 運営者コース初任者編
- ・再犯防止に関する研修会（基礎、応用）
- ・ひきこもり支援者向け研修（概論、家族支援、訪問相談支援）
- ・地域ケアのオープンダイアローグ研修
- ・府中市障害福祉人材確保対策研修
- ・精神保健福祉研修（保健基礎、大人の発達障害、障害年金、アウトリーチ、多問題家族支援、相談支援力向上、パーソナリティ症の理解と対応）
- ・コミュニティソーシャルワーク・パワーアップセミナー2025
- ・コミュニティコーピング
- ・南プロ社協職員連絡会研修
- ・府中市関連団体職員合同研修会
- ・日本福祉大学フクシアカデミー ボランティアは減退するのか
- ・親族に頼りにくい方に対する身元保証勉強会
- ・防災士研修講座

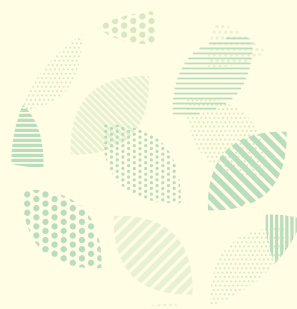
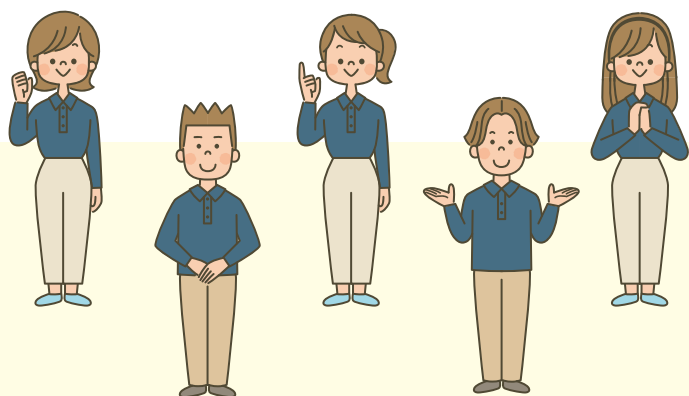
講師協力

【生活支援コーディネーター（1層）（2層）】

- ・社会参加についての説明(体力測定会、ルミエールdeフレイル予防、60～70歳教室)
- ・「ボランティアってなんだろう」講義
- ・特得セミナー「ボランティアについて」
- ・元気いっぱいサポーターリーダー養成講座「地域で支えあうまちづくり活動」講義
- ・認知症に備える市民講演会(社会参加ブース)
- ・ひろめ隊連絡会「SCについて」

【地域福祉コーディネーター】

- ・新任民生委員事業説明会
- ・日本社会事業大学
- ・教職員研修
- ・大田区社会福祉協議会
- ・フクシを知ろう、なんでもセミナー(東社協)
- ・福祉のしごとミニセミナー



地域福祉コーディネーター
生活支援コーディネーター

令和7年度活動報告書

府中市社会福祉協議会

令和8年8月発行

発行者：社会福祉法人 府中市社会福祉協議会
〒183-0055 府中市府中町 1-30 ふれあい会館内

電話：042-364-5382 FAX：042-362-9090

ホームページ：<https://www.fsyakyo.or.jp/>

メール：fuwari@fsyakyo.or.jp



2次元コードから
ホームページへ
移動できます

